



# 地域と共に成長する

## 「ほんなもん体験」

今では、この地域の代名詞の一つとなった「ほんなもん体験」。官民の連携、地域の生業を生かした新たな地場産業の創出、教育効果の高い体験活動という点で、この地域は全国から注目される体験型旅行の先進地となっています。

### 地域と共に

私たちが住んでいるこの北松浦半島地域は、島や半島ならではの変化に富んだ豊かな自然環境があり、農林漁業など多様な生業が営まれています。

この地域に根ざしている食文化や生活文化そのものを生かしながら、交流人口の拡大と地域経済の活性化を図るため、「ほんなもん体験」は展開されています。

この事業は、地域の理解や協力を得ることによって成長し、その結果として地域に活力をもたらす：まさに、地域と共に成長する事業です。

### まつうら党交流公社

この事業の中核を担っているのが、事業のコーディネートを担当する民間組織「一般社団法人まつうら党交流公社」です。

#### 一般社団法人 まつうら党交流公社



同公社は、平成14年1月に設立された同公社の前身である「松浦体験型旅行協議会」と関係団体の「松浦党の里体験観光協議会」、「NPO法人体験観光ネットワーク松浦党」の3団体を発展的に再編・統合し、平成21年4月に誕生しました。

以前は、これらの3つの組織が、コーディネイト・受け入れ体制づくり・広域連携支援の業務を専門的に分担し、3つの組織のネットワークによって事業運営をしていました。

しかし、全国的に体験型観光に取り組む動きが高まる中、組織の強化を図り、効果的な事業展開を推進していくために、これまでの組織を一本化し、総合的かつ効率的な事業運営ができる体制をつくりました。

「ほんなもん体験」では、地域の自然や生業に根ざした約80種類の豊富な農林漁業体験プログラムが整備されており、受け入れ民家500軒による1日最大1,700人のホームステイが可能なのは、全国でも類を見ない運営体制となっています。

体験できる内容は、手軽な類似体験ではありません。この地域に根ざす、生活や生業そのものであり、大変さ・難しさ・不便さなどを感じることで、その体験を通じ、力強く生きる力を育成します。



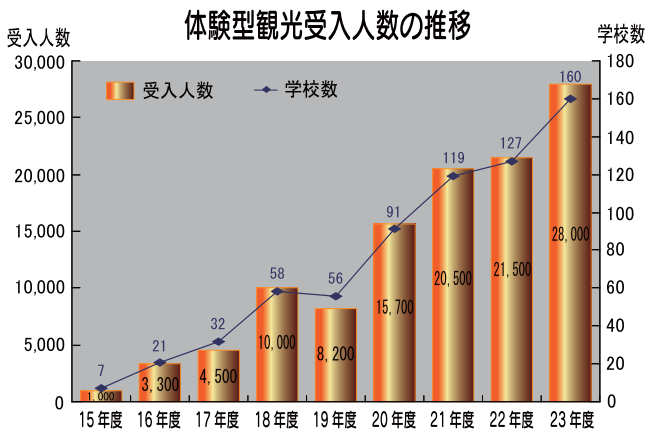


## 地域への貢献

### ①受け入れ人数の推移

「ほんなもん体験」は、地域経済の活性化という大きな役割も担っています。

平成15年5月、初めて青島地区で修学旅行生の受け入れを行ったところから、本格的に動き始めた「ほんなもん体験」。初年度となる平成15年度実績は、1,000人でした。その後、順調に受け入れ人数は増加し、平成18年度に10,000人、平成21年度には20,000人を突破しました。今年度は28,000人の受け入れが見込まれており、事業開始からの10年間で延べ11万人を越



えています。

### ②誇りと生きがい

「ほんなもん体験」が始められた当初は、「こんな田舎に修学旅行生が来るはずがない」、「他人を泊めるのはちよつと」といった具合に、受け入れ側である農漁業者などの反応は、事業そのものに対して半信半疑といった様子でした。しかし、いざ受け入れが終わると「家の中が久しぶりに賑おうた」、「楽しかった。今度はいつ来ると」と、その評価は一変していました。

高齢化や後継者不足など、農漁村を取り巻く環境は依然として厳しいものがありますが、「ほんなもん体験」を通して、修学旅行生など、たくさん子どもたちが体験に訪れることにより、地域に活気が生まれま

す。また、担い手は、体験者に生業の厳しさや喜びを伝えることで、青少年の「生きる力」を育むという社会貢献に誇りを持ち、生業を続けることへの生きがいと自信を実感しています。

### ③全国に松浦をアピール

「ほんなもん体験」は、次第に体験型観光の先進的事例として注目を浴びるようになり、全国的にも高い評価を受けるようになりました。

平成19年3月、体験型教育旅行の先進的取り組みが評価され、「第4回

オーライ！ニッポン大賞グランプリ（内閣総理大臣賞）」を受賞し、これを機に市民意識を高め、官民一体となった取り組みを進めようと「ほんなもん体験日本一のまちづくり」を宣言しました。また、同年11月には長崎県の体験型観光推進に貢献したとして、「県民表彰特別賞」を受賞。さらには、平成20年1月、多彩な体験メニューの開発や受け入れ体制づくりなどが評価され、「第3回JTB交流文化賞優秀賞」を受賞しました。そして今年2月、共同通信社と地方新聞46社で創設された「第2回地域再生大賞九州・沖縄ブロック賞」を受賞するなど、体験型観光におけるリーダー的存在として活躍しています。

#### 松浦市ほんもの体験 日本一のまちづくり宣言

松浦市民は、豊かな自然の中で多様な生業を営みながら築いてきた独自の文化を大切に守り、貴重な財産として後世に引き継がなければなりません。私たちは、体験交流で松浦市を訪れた人々に、ありのままの「ほんもの」の地域文化に触れる機会を提供することで、食べる喜び、心が通じ合う喜び、自然に囲まれて働く喜びを実感していただきたいと願っています。

私たち松浦市民は、誇りを持ってこれらの地域文化を提供し、体験交流を新たな産業として育て、魅力あるまちづくりをするために、ここに「ほんもの体験日本一のまちづくり」を宣言します。

(平成19年9月20日告示)